

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172101202
法人名	株式会社 アイデイ・インターナショナル
事業所名	グループホーム 東町
訪問調査日	平成 20年 11月 13日
評価確定日	平成 20年 12月 25日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2172101202		
法人名	株式会社 アイデイ・インターナショナル		
事業所名	グループホーム 東町		
所在地	大垣市東町4丁目44番地1 (電話) 0584 - 82 - 1508		

評価機関名	旅人とたいようの会		
所在地	大垣市伝馬町110		
訪問調査日	平成20年11月13日	評価確定日	平成20年12月25日

【情報提供票より】(20 年 9 月 24 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 12

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1400 円	

(4) 利用者の概要(9 月 24 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大垣市民病院	はやかわクリニック	岩田歯科
---------	--------	-----------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員全員で話し合い、利用者本人の願いを検討した中から、ホームが地域で役割を持ち、共に生活していこうという理念を作り、実践する姿勢がある。男性利用者は種まきや畑仕事を、女性は縫い物や編み物など個性を活かした役割を分担している。夏のバーベキュー、寒くなる頃の干し柿づくりなど季節折々の行事で生活を単調にしない工夫もある。時には、個々の希望に応じて職員と二人で映画鑑賞や喫茶店へ出かけるコミュニケーションの機会もある。隣接施設の機能を活かした協力関係は、防災面だけでなく、様々な生活場面でホームの力となっている。新入職員の研修も独自の工夫で、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>夜間入浴の代替で、足浴を実施した。重度化、終末期の対応は夜間看護体制を実施し、職員研修を増やした。評価終了後、苦情相談窓口として公的機関を、直ちに追加し重要事項説明書に記載した。広報「こもれび」で呼びかけ地域住民と避難訓練を行った。毎月のホームたより等で職員異動や運営推進会議の様子を家族に報告している。民生委員・老人会の参加については現在、実現に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員は、外部評価が日頃の支援を振り返り、気づくことが出来るよい機会と捉えている。前回の改善シートを点検しながら話し合う中で、排泄ケアの声掛け場面での気配りや、足浴・手浴を実施するなど、その都度気付きがあり、具体的なケアの取り組みに結び付けている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、隣接施設にあるグループホームと当ホームが合同で開催している。当ホーム以外の話題や報告も聞くことが出来て運営に活かしている。会議では、利用者の状況やホームでの様子を報告している。自治会長には、近隣の幼稚園に利用者の作品を出品したり、小学校の運動会に招待されるなどの橋渡しをしていただく場となっている。現在、ホームからは地域との付き合いを深めるため老人会や、民生委員にも参加していただけるよう働きかけている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に意見箱を設置している他、前回評価結果を直ちに反映し、外部への苦情相談窓口として公的機関を追加し、重要事項説明書に明記した。家族から、利用者の生活や健康面などで具体的な意見が出されて、個別に畑仕事への参加や、食事内容の変更などをケアプランに取り入れ活かしている。面会時に、あるいは電話で、出来るだけ要望を聞くよう努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>保育園に、利用者の刺し子や折り紙等、作品を出品したり、小学校の運動会などに招かれ、出かける交流があり、近隣の商店に買い物にも行っている。地域に向けては、広報「こもれび」を発行し、自治会長を通じて回覧板でホームの様子を知らせている。自治会には折々の行事に参加するなど、地域との連携に向けた積極的な姿勢がある。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員自身がホームに生活することになったときには、どのような生活を望むかを、職員全員で話し合い、多くの意見や希望が挙げられた。外出したい、お墓参りもしたいなどの本人の願いを検討する中から、ホームが地域で役割を持ち、共に生活していこうという理念を全員で創りあげた。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームとして実践目標を定め、実現に向けて職員全員で取り組んでいる。また、個々の利用者のこれまでの環境に結びついた目標になっているか、ユニットごとに目標を見直し、それを掲示している。地域での活動については、職員の理解と意識の向上を図る研修に、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	積極的に小学校・幼稚園の行事に参加している。散歩・買い物時に声をかけたり地域ボランティアを受け入れている。地域向けの広報「こもれび」でホームの様子を自治会長を通じ回覧版で知らせている。自治会には、折々の行事に参加する機会もあるが、地域住民、子供たちが気楽にホームへ、立ち寄ってもらえる関係作りには至っていない。		ホームの日常生活を知ってもらい、住民の認知症に対する理解を広め、深める、地域での役割を期待したい。ホームから地域へ出て行くことにとどまらず、玄関に地域住民が入りやすい工夫をするなどして、住民からホームに提案がなされるような交流へ踏み出す積極性も望みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が、外部評価を自らの支援を振り返り、気づく良い機会と捉えている。職員は前回の改善シートを検討しながら、自由にそれぞれの意見を出し合い、ユニットごとに取り組んでいる。話し合う中で、排泄介助時の声掛け場面での気配りや、足浴・手浴の実施など気付を活かして、具体的な取り組みに結び付けている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣接する施設内のグループホームと一緒に、施設で開催している。自治会長から、近隣の幼稚園、小学校と交流の働きかけをしてもらっている。会議での意見をサービスに反映し、その内容を家族に便りて報告しているが、地域住民や家族の参加はなく、当ホーム独自の意見反映の場というには、いまだ物足りない。		ホーム独自のメンバー構成で会議を開催し、地域住民・家族の幅広い意見や協力を得られる工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大垣市に住所のない人が利用を希望されたり、逆に隣県で生活したいといった、要望の入居者もある。生まれ育ったところで暮らしたいという利用者の希望など、何とか実現したいと本人本位に考え、その都度市町村担当者と連携しながら、サービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や電話で利用者の様子や健康状態を報告している。特に介護計画の見直しには、電話で訪問を依頼し、具体的に要望を訊ねている。毎月発行の「東町たより」に行事や職員異動等報告している。金銭管理は3ヶ月ごとに出納帳のコピーで確認している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族等が意見・苦情を言いやすい雰囲気づくりを常に心がけ、意見箱・外部の苦情受付機関も知らせている。家族から、利用者の生活や健康面などで具体的な意見が出されて、運動量を増やすため畑仕事への参加や、食事内容の見直しをして個別の介護計画に取り入れ活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にし引き継ぎ方に配慮している。結婚退職時は利用者と一緒に祝って納得を得られるよう説明している。新任者は担当する利用者1対1で買い物・外食等に出掛けるなどして、早期のコミュニケーション形成に心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時は常勤・非常勤を問わず一ヶ月程度の研修があり、個別・項目別にユニットリーダーが漏れのないよう最終チェックをしている。研修会の情報は掲示され、希望することもでき、費用補助制度を設け勤務調整して受講している。受講後は報告書を提出し職員間で共有している。資格取得支援にも積極的である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者ネットワークの定期的な会議に参加し、情報を職員と共有している。書類・ターミナル情報等、同業者と連携や協働をしている。管理者同志も個別の交流を図り、情報交換している。隣接の、グループホームのある老人福祉施設の講習会に職員が参加し協力関係を深めながら質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>申し込みの段階で本人・家族とケアマネジャー・管理者等が面接し、心身の状態や想いを確認している。何度も見学や遊びに誘い利用者とも話しあいながら、ホームの雰囲気に慣れ納得した入居となるよう配慮している。在宅や独居から入居となる場合は、隣接施設のショートステイを利用し泊まりに慣れての入居となるよう工夫することもある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は様々な場面で、家庭だったらどうするだろうか、という意識を持つことを心がけている。利用者を年長者として尊敬し、調理の時には味付けを、洗濯物では「そろそろ片付けたほうがよい」などと教えてもらう場面もある。入院や退居の時などには、入居者と共に涙で送り出す体験もしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>好みや、買い物など利用者を普段から観察し、希望・意向の把握に努めている。職員が休みの日を利用したボランティアで映画鑑賞をすることもある。利用者と喫茶店へ行き、二人だけで本音を聞くことも出来る良い機会となっている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始時には暮らしぶり、価値観、希望などを本人・家族、本人をよく知る人にも聞き、本人にとりその人らしく安心して暮らせるよう、職員間で話し合い作成している。更新の時には、訪問時や電話を利用して家族から意見・要望・意向を聞き取り、確認し、ケアマネジャー・担当職員等ユニット会議で話し合い作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入院など状態の変化があった時に必要があれば、担当医師・ケアマネジャー・看護師・リーダー・居室担当者に家族を含めてサービス担当者会議を開き、利用者の状態を把握し、新たに介護計画を作成している。また、日ごろから評価表に記録し、介護計画の見直しに役立てている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診や買い物に、家族の付き添いが困難な時は、職員が付き添い、美容院への外出支援もしている。隣接の施設で歯科診療ができて、利用の支援もしている。多人数の外出時に大型自動車を借りたり、大きな洗濯物を洗ってもらうなど、協力施設のある利点を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を尊重し、かかりつけ医を持ってもらっている。かかりつけ医の受診に家族が付き添うことが困難な場合には、職員が支援をしている。看護師が記録し、家族に医療情報を提供し、必要があれば、ホーム提携医の往診との連絡調整をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については契約時に話し合っている。医療行為の必要状況を家族と相談し希望に沿う支援をしている。職員にもターミナル研修を受講させ、隣接施設の看護師との夜間連携もしている。、重度化した場合は、早期に医師と家族・ホームで話し合い職員全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日ごろから言葉かけの対応の指導をしている。利用者を尊重した声かけ・耳元で声かけてからトイレ誘導など、申し送り時にも場所・声の大きさに配慮している。入浴・排泄時には同性介助に心がけている。個人情報書類は事務所の目につきにくい保管庫に管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	調理、掃除、体操などのスケジュールは、本人の意思にまかせているが、生活が不規則にならないような声掛けはしている。食欲が無い様なら無理に進めず、体調に合わせて後で温め直したり、部屋に運ぶなど細やかな支援をしている。外出したいそぶりの利用者には、個別に外出する支援もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時、テレビを消すユニットと、朝夕テレビを見るユニットがあるなど、利用者の好みや習慣を大切にしている。昼食の献立は利用者の好みや季節感を取り入れ一緒に考えている。食材を刻む、片付け等、利用者のできる力を引き出し職員も同席して食事をしている。嫌いな食材には代替を準備し対応している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回午前午後、利用者の希望にあわせ入浴している。足浴・手浴など利用者の状態や希望にあわせ、又一人の職員が一人の利用者を開始から終わりまで話をしながら介助を行い、本人のペースでゆっくり楽しむことができる。広い浴室は、面会に来た家族が入浴の世話をすることも出来て、喜ばれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	C Dと一緒にお経をあげる人、仏壇や位牌をお参りする人もいる。調理、盛り付けの得意な人、夏に水撒きをする役割の人、踊りの師匠だった人がいる等それぞれの生活歴を把握して力を活かしている。缶ビールを部屋で一本飲むことを楽しみにしている人もいる。季節に合わせて、今年の冬には干し芋つくりの計画がある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの食品スーパーなどに、休日の職員がボランティアとして利用者と共に、買い物兼ねた散歩をしている。不穩で外に出たい様子が見られる時などは、個別に付き添う外出支援もしている。季節ごとに、あるいは家族と共に、出かけたり外食の機会も多い。不穩で外出したい様子が見られれば個別に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、職員が事務所にいない時には死角となるため施錠していて、事務所に職員がいる時は開放している。居室には、利用者の自由意思で施錠可能な鍵が設置してある。夜は利用者の半数が自分で施錠していて、見廻りするときには声の掛け方などを、工夫している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、隣接の協力施設と避難訓練を実施している。又前回の改善計画に基づき地域住民と協力して避難訓練を防火管理者を中心に実施している。年1回、ホーム独自で夜間を想定しての避難訓練を実施している。利用者の緊急対応についても、全職員で救急救命研修を受けている。災害に備え米・味噌など備蓄がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に担当職員を決め、個別に食事量、水分量などを記録し、好み、習慣を把握している。献立は、医師と相談して、最終的に隣接施設の栄養士が確認している。昼食の献立は、利用者の希望を聞き決めている。好き、嫌いには代替を準備し、体調によっては、時間をずらし、後で温めたものを居室で食べることも出来る。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	二つのユニットの中央部分に居間、台所、食堂を配置している。居間、食堂から中庭の緑が見通せて、洗濯物が干してあるのが見える。利用者が育てているプランターも見え、自分たちが干した洗濯物がいつ乾くか、などの利用者同士の会話にも生活感がある。広い中庭の空間は利用者全員で花火を見たり、バーベキューや焼芋もできて居心地良く過ごせる憩いの場となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はすっきりと整理されて、清潔感がある。本人が作った手芸の品や、家族と写った写真などを思い思いに飾り、それぞれ個性のある部屋になっている。大切な人へのメモが張ってあったり、作成中の壁飾りについて、丁寧に説明してくれる利用者もいて「自分の住まい」という思いが伝わる居室となっている。		